

やたわか通信

2017年12月 1日

ホームページ：<http://yatawaka.com/>

発行：矢田わか子事務所



第195特別国会が始まる

10月22日(日)に施行された第48回衆議院議員総選挙を受けて、11月1日(水)に第195特別国会が召集されました。会期は12月9日(土)までの39日間となりました。

本国会では、国家公務員の給与法改正案をはじめとするいくつかの法案の審議や、6月に通常国会が閉会して以降、論議されていない諸般の政治案件を取り扱う予定となっています。



特別国会って何？

特別国会とは、解散による衆議院議員総選挙が行われて30日以内に召集することが義務付けられている国会です。内閣総理大臣の指名を第一の目的として召集され、会期の冒頭に指名選挙が行われます。そのため、法案審議などが行われない場合があります。なお、会期は両議院一致の議決によって定められ、2回まで延長することができます。

なお、解散時期により、召集が通常国会召集の時期と重なる場合は、通常国会を特別国会に置き換えることが認められ、予算審議が行われることもあります。

電機連合組織内議員の所属委員会・調査会が決まりました

石上議員



参議院

- ・経済産業委員会
- ・決算委員会
- ・政府開発援助等に関する特別委員会
- ・国民生活・経済に関する調査会

浅野議員



衆議院

- ・経済産業委員会
- ・災害対策特別委員会
- ・原子力問題調査特別委員会

矢田議員



参議院

- ・内閣委員会
- ・決算委員会
- ・消費者問題に関する特別委員会
- ・資源エネルギーに関する調査会

教えて! やたわかさん!! 参議院議場では、どのあたりに座っているのですか?

矢田議員には多くの意見・要望・質問が寄せられています。その中から今回は『本会議場での席順』についてご紹介します。



テレビや参議院ホームページで見ることができる本会議の中継で、矢田議員の姿を探すのですが、見つけることができません。どのあたりに座っているのでしょうか？ また、席順はどうやって決めているのでしょうか？

本会議場での議席は召集日の本会議において議長が指定しますが、その区分については会派別に分けられています。

参議院では、議席の中央を大きい会派が座り、その左右に小さい会派が座るようになっています（※ちなみに衆議院では、議長から見て右側から左側に向かって大きい会派順に割り当てられます）。

また、各会派とも当選回数が少ない議員ほど演壇から見て前方に座り、当選回数を重ねた議員になるほど順次後方の席に座っていくのが一般的です。

私は新人議員ですので、最前列に座っています。本会議の国会中継をご覧になるときは、最前列に注目して見ていただくとうれしいです。



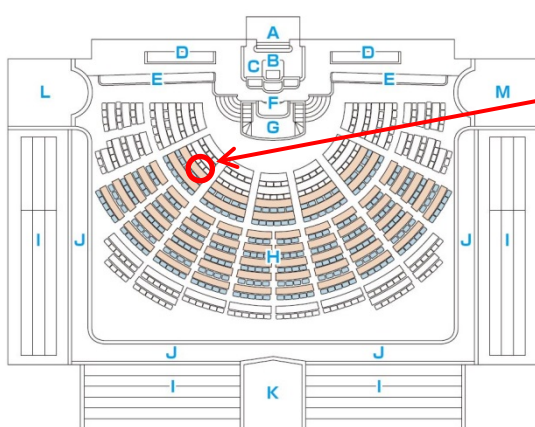
矢田議員

<参考> 参議院議場のレイアウト

矢田議員の座席

参議院本会議場の座席は以下のようにすべて決められています。本会議傍聴等で国会へお越しの際に、確認してみてください。

- | | |
|-----------------------|------------|
| A：開会式で、天皇陛下がおすわりになるお席 | G：速記者席 |
| B：議長席 | H：議員席 |
| C：事務総長席 | I：傍聴席 |
| D：事務局職員席 | J：報道関係者席 |
| E：国務大臣席 | K：天皇陛下御傍聴席 |
| F：演壇 | L：皇族席 |
| | M：貴賓席 |



サイバーセキュリティ対策の重要性



矢田議員が掲げている政策の3本柱「働く」「暮らす」「育てる」の中から、国会で審議されている等のホットな話題を選び、政策コラムとしてお届けします。

私が現在所属している内閣委員会は、サイバーセキュリティ行政を担当しています。国境を越えたサイバー攻撃については、昨年アメリカ大統領選挙におけるヒラリー・クリントン陣営のメール流失事件などで注目されました。一方で、日本でも行政機関や企業に対しても日常的にサイバー攻撃が行われており、対応に追われています。

さらに、最近ではIoT家電を狙ったサイバー攻撃が明らかにされ、NHKの特集番組でも紹介されました。IoTは第4次産業革命の主要な技術であり、電機産業としても市場拡大が大きく期待されている分野です。政府は来年度の税制改正項目として、IoTなど新技術に対応する設備投資減税を打ち出していますが、この問題が解決しなければ、IoT家電に対する消費者の購買意欲が低下することになりかねないといえます。

内閣府は、来年度予算編成に向けて、新たに「IoTサイバーセキュリティ対策予算」として1億9,000万円を要求していますが、この予算規模では不十分だと思います。本年7月に、国連機関の国際電気通信連合（ITU）は134カ国を対象に、サイバー攻撃に対する各国の防衛能力を分析しましたが、日本は11位という結果でした。1位のシンガポール、2位のアメリカに並ぶよう、人材確保を含めたさらなる対策の強化を求めています。

とりわけ、国家資格である「情報処理安全確保支援士」制度が昨年新設され、現在までに約7,000名のスペシャリストが登録されました。この「支援士」の皆さんの大いなる活躍を期待したいと思います。



日本のサイバーセキュリティ対策は、他の国と比べて進んでいるの？

「サイバー」とは、インターネットが形成する情報空間のことを表します。その空間のセキュリティ（保安・警備）を行うことを「サイバーセキュリティ」といい、攻撃者が行う不正侵入や改ざん、なりすまし、不正アクセスなどの悪意ある攻撃から資産を守り、安全を確保することを指しています。

国際電気通信連合（ITU）は、①法整備、②技術体制、③組織対応力、④教育・訓練体制、⑤協力体制の5分野ごとに評点をつけて、各国の防衛能力を順位づけしました。

順位	国名	順位	国名
1	シンガポール	10	ロシア連邦
2	アメリカ合衆国	11	日本
3	マレーシア		ノルウェー
4	オマーン	12	イギリス
5	エストニア	13	大韓民国
6	モリシャス	14	エジプト
7	オーストラリア	15	オランダ
8	ジョージア	16	フィンランド
	フランス	17	スウェーデン
9	カナダ	18	スイス

【表】国際電気通信連合による、国別サイバー対策ランキング上位20国
出所：「Global Cybersecurity Index 2017」（ITU発表：2017年7月5日）より、矢田わか子事務所作成

ITUによると、日本は「官民協力」や「インセンティブの仕組みづくり」等が課題とされています。今後のサイバーセキュリティ対策は、国家戦略など政府の関与が不可欠と言えそうです。

このテーマに関して、12月5日(火)の内閣委員会にて、大臣所信に対し質問に立ちます！

◆矢田議員からのメッセージ

11月1日に召集された特別国会。ようやく本格的な議論が始まりましたが、会期日数が短かく、国会で議論できるのは実質約2週間のみ。重要法案の審議などは先送りとなりました。来年1月からの通常国会に向けて、準備を進めて参りたいと思っております。 矢田 わか子